一般の方々へ

平成28年度東京都地域資源発掘型実証プログラム事業
隅田川上流への誘導からはじまる奥浅草観光ツアー
本ツアーは東京都の「地域資源発掘型実証プログラム事業」の取組の一環として実施しています。

ゆるゆる参ろう奥浅草

池波正太郎が愛した江戸の人情、ここにあり

池波正太郎・画
「長谷川平蔵市中見廻りの図」

参加無料

第1回
2/22［水］
10:30~14:30

第2回
2/23［木］
10:30~14:30

ランチ
浅草一文別館
ねぎま鍋

待乳山聖天で金原亭馬生師匠の「奥浅草ゆかりの落語・茶番」を約40分間お楽しみいただけます。

募集人数
各回15名 合計30名

申込締め切り（先着順） 2/15（水）
※定員となり次第、募集終了となります。
※お申し込みを頂いた方には2月16日（木）までに結果をご連絡させていただきます。

主催：奥浅草観光連携協議会

奥浅草

池波正太郎が愛した江戸の人情、ここにあり

私（パンダバス）の写真がある区間は、私に乗って移動します！

＜実施要項＞

雷門や浅草寺、仲見世通りに代表される浅草。その浅草寺の北側に当たる「奥浅草」が今、ひそかに話題となっています。東に隅田川を臨む奥浅草は、浅草寺・言問通りの北側エリアで、歌舞伎の江戸三座跡地をはじめ、吉原や数々の寺社が点在する歴史とロマンを感じるエリアでもあります。明治維新後は、西洋靴への切り替えに伴い皮革産業発展の地ともなりました。
カフェやレストランがオープンするなど旧来の観光だけでない、レトロモダンな情報の発信地としても注目されています。

この度、浅草にゆかりのある「池波正太郎の世界観をテーマに、観光ツアーを開催いたします。

＜ツアー内容＞

日時	第一回　平成29年2月22日（水）10:30～14:30 第二回　平成29年2月23日（木）10:30～14:30
対象	奥浅草に興味のあるなしにかかわらず、本ツアーの趣旨をご理解いただき、アンケート等にご協力いただける広く一般の方々
集合	あみ清　船着場　10:30（厳守） （東京都台東区雷門2−20−12）
参加費	無料
募集人員	各回先着15名（合計30名）※定員になり次第、募集終了となります。

※当日の気象状況によっては、プログラムが変更になる場合があります。

お申し込み
電話・ファックスにて受付いたします。
電話：03（3839）5229
ファックス：03（3837）5709

お問い合せ
奥浅草観光連携協議会
運営事務局［（株）アド・インターフェース］
電話：03（3839）5229

基本ルート

1. OKAWABASHI（AZUMABASHI）大川橋（吾妻橋）　10:30 出発
2. SANYABORI HIROBA 山谷堀広場
3. MATSUCHIYAMA SHOUDEN 待乳山聖天
4. CHOSHO JI 長昌寺
5. HONSHO JI 本性寺
6. MYOUKIDUKA（ASAJIGAHARA）妙亀塚（浅茅ヶ原）
7. OBAKEJIZO（SOUSEN JI/SHOUGIN JI）お化け地蔵（総泉寺・松吟寺）
8. TAMAHIMEINARI JINJYA 玉姫稲荷神社
9. YOSHIWARAOMON 吉原大門
10. YOSHIWARA JINJYA 吉原神社
11. YOSHIWARA BENZAITEN 吉原弁財天
12. SENGEN JINJYA 浅間神社　14:30 解散（予定）

大川橋（吾妻橋）／安永3（1774）年、6名の町人が江戸幕府の承認を得て架橋。江戸の頃の隅田川には両国・永代・吾妻・新大橋の四橋があり、吾妻橋以外は幕府で架設されたもの。名称は、江戸から東へ通じる、または江戸の東にあるという意味の「東橋」からで、雅な表記「吾妻橋」が好まれた。明治9（1876）年、正式に「吾妻橋」となった。

山谷堀広場／隅田公園の北部にある広場。江戸時代に浅草神社の正月行事だった「浅草流鏑馬」が隅田公園特設会場で披露されるが、山谷堀広場では、昔、射術の練習用に、草を束ねて鹿に似せてつくった的を射る「草鹿（くさじし）」が催される。

待乳山聖天／ご本尊は聖天様。境内に賑やかな浅草とは思えない静寂が広がり、強力なパワースポットと呼ばれるだけある。境内の中のあちこちに、「待乳山聖天」のシンボルである大根と巾着が彫り物や絵として飾られている。体内の毒と煩悩を消す効果があるとして、大根を供えることは自らを洗い清めて頂く意味合いを持っています。また巾着は砂金袋を表しており、商売繁盛を願って、多くの人が供えにやってきます。

妙亀塚／妙亀塚公園という小さな公園の中にある塚。このあたりは謡曲「隅田川」で有名な妙亀尼とその子梅若丸の伝説の地で、小高い塚に板碑をはめ込んだ供養塔が立っており、都の旧跡に指定されています。妙亀塚は「梅若伝説」にちなんだ名称です。

平賀源内墓／エレキテル（摩擦起電機）の復元製作などで知られる、江戸中期～後期に活躍した発明家・平賀源内の墓。安永8年（1779）に殺傷事件を起こし、小伝馬町の牢内で獄死、当地にあった総泉寺に葬られたといい、総泉寺が板橋区小豆沢に移転した後も墓は当地に保存、昭和6年には松平頼壽（旧高松藩当主）により築地塀が整備され、昭和18年に国史跡に指定された。

吉原大門／幕府公認の遊廓である吉原の入り口に設けられていた門の跡地。江戸時代には黒塗りアーチ型楼門（木造）だったが、明治には鉄門となったが、1911年に大火で焼失し、関東大震災後に撤去された。

浅間神社／富士山への信仰に基き勧請された神社で、神体として「木造木花咲耶姫命坐像」を安置する。創建年代は不明だが、江戸時代初期の寛文11年（1671）までには鎮座していたようである。江戸時代には浅草寺子院修善院の管理のもと、修験道による祭祀が行われ、江戸を代表する富士信仰の聖地として、各地の富士講講院たちの尊崇を集めた。